

円筒埴輪

古墳でもっとも多く使われたのが筒のような形をした円筒埴輪です。古墳の上や周りに置かれました。



円筒埴輪
(諏訪ノ木古墳・元阿保)



大型円筒埴輪
(諏訪ノ木古墳)



朝顔形埴輪
(諏訪ノ木古墳)

ラッパ状に開いた上部が特徴です。朝顔の花に似ていることから名付けられました。

KAMIKAWA HANIWA COLLECTION

形象埴輪



人物埴輪
(諏訪ノ木古墳)

一般的に埴輪と聞いて思い浮かべられるのが人物埴輪です。王や武人、巫女、力士など色々な人物埴輪が作られました。

※()内は出土した古墳名を表しています。

器材埴輪

大刀や盾、矢を収納する鞆(ゆぎ)などの武器の他、儀式に使う特別な道具などを表した埴輪をまとめて器材埴輪と呼びます。



鞆形埴輪
(諏訪ノ木古墳)



大刀形埴輪
(諏訪ノ木古墳)



盾形埴輪
(南塚原40号墳・新里)



馬形埴輪
(諏訪ノ木古墳)

古墳時代には馬がとても貴重な存在であったため、財力や地位の高さを示す象徴であったと考えられます。

「はにわ博士」になろう！

問合せ 生涯学習課 文化財担当 ☎0274-52-2586 FAX0274-52-2586

神川町にはかつて300基以上の古墳が存在していて、その半数以上の古墳に埴輪が並べられていたと考えられます。

今月号では、「名前は聞いたことあるけど、実は詳しく知らない」ともいわれる「埴輪」について特集します。

この特集を読めば、あなたも「はにわ博士」になれます！

埴輪とは

埴輪は粘土を輪状に積み上げて作られた土製の焼き物で、3世紀後半から6世紀末までの約350年間、古墳に並べられました。さまざまな種類の埴輪がありますが、筒の形をした「円筒埴輪」と人や動物、器物の形をした「形象埴輪」の2種類に大きく分けられます。

円筒埴輪はおもに古墳のまわりに並べられ、邪悪なものから古墳を守る役割を持っていたと考えられます。形象埴輪は埋葬された人を守るために古墳の頂上に置かれたのが始まりと言われています。

